

# 一番茶摘採前の散水や液肥の施用による生葉品質の向上

即効性肥料が使えない有機栽培に適した品質向上技術

## 背景・目的

- 茶の輸出は増加傾向にあり、今後は輸出に有利な有機栽培が増加すると考えられます。
- 有機栽培では硫安等の速効性肥料が使用できず、生葉の品質向上が課題となっていることから、有機栽培でも利用可能な液肥や散水を行うことで、生葉の品質向上について検討しました。

## 成果の内容

- 一番茶摘採前に一週間おきに4回程度散水や液肥を施用することで荒茶成分が向上します(図1)。
- 一番茶摘採前の散水や液肥の施用による品質向上効果は一番茶よりも二番茶で高くなります(図1)。
- 散水のみ、液肥のみでも品質は向上しますが、両方組み合わせるとさらに効果が高まります(図1)。

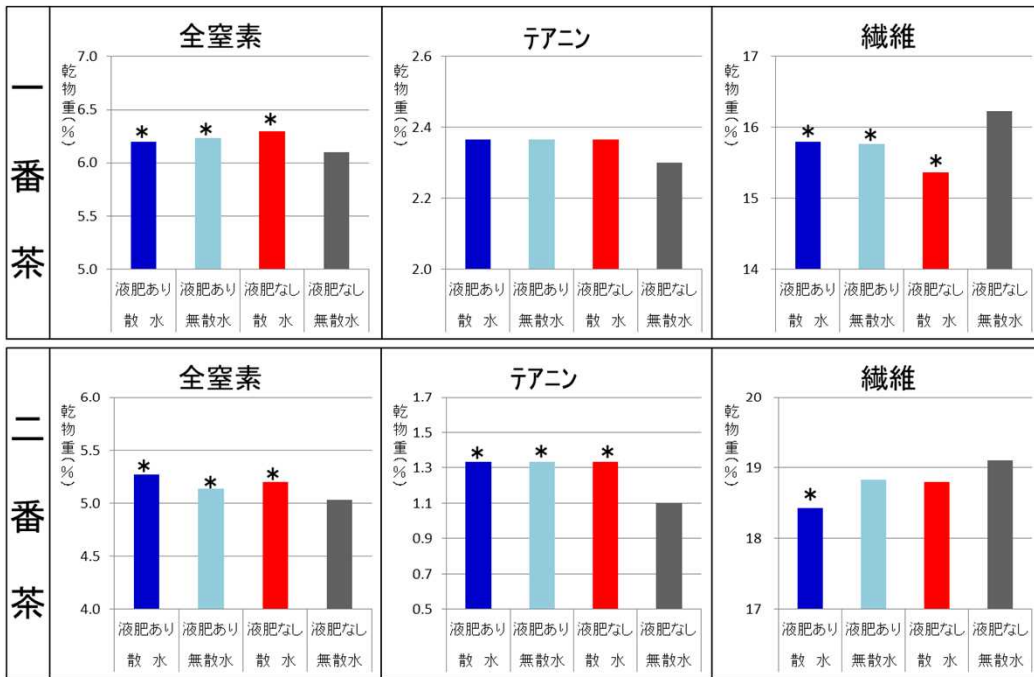


写真1 スプリンクラーによる散水状況

注1) \*は、Dunnett testにおいて「液肥なし・無散水」と比較し5%水準で有意差あり。

注2) 全窒素：おいしいお茶ほど多く含まれる成分。

テアニン：お茶の旨味成分で、含まれる量が多いほど旨味の強いお茶となる。

繊維：数値が大きいかほど茶の葉が硬く品質が劣る。

図1 一番茶摘採前の散水と液肥の施用が一番茶と二番茶の化学成分に与える影響

## 成果の活用方法(又は期待される効果)

- 一番茶萌芽前に散水や液肥を施用することで生葉品質の向上するため、硫安等の化学肥料を使用できない有機栽培茶園でも利用可能な品質向上技術です。
- 普及対象地域・面積 畑地灌漑施設が整備されている有機栽培茶園(一般茶園でも利用可能です)。

## 留意点

- 今試験は、場内の「みやまかおり(慣行栽培、春肥以降は施肥なし)」を用いて行った結果です。
- 液肥の散布量は2000L/10aで、散水はスプリンクラーで4時間程度行っています。